

つくば鍼灸マッサージ師会新聞

事務局・つくば草の根はりきゅう院

つくば市大角豆二〇一二一四三
〇二九一八五九一三六四八

熊本地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

当会副会長の沼尻良夫先生(リウト鍼灸治療院・市内高野台)が施術ボランティアに行かれた様子が茨城新聞に掲載されました。被災から2週間弱過ぎた後でし

たが、神経過敏になられている被災者の方は非常に多く、体中が痛い・全体的な疲れ・心身ともに疲弊・睡眠障害、といった症状が多かったそうです。施術後は皆さんリラックスして頂けたそうで、即効性が期待できることが改めて確認されました。

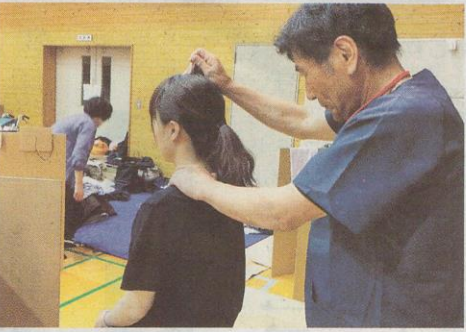
つくば鍼灸マッサージ師会 被災者の心身とらげる

茨城から
熊本へ

熊本地震を受け、避難所で生活する被災者の心身の苦痛を少しでも和らげたいと、つくば市内のはり・きゅうマッサージ師で組織す

る団体が、熊本県内に入りボランティアで治療を行った。現地では緊張状態が続く中、自律神経のバランスが崩れさまざまな症状が出た人がおり、団体は東日本大震災時の治療経験を生かし、被災者ケアの支援に当たった。

支援活動をしたのは「つくば鍼灸マッサージ師会」(小池栄治会長)。沼尻良夫副会長が訪問し、1〜7日、同県内の小学校などの避難所



熊本地震で避難所生活する人に頭部へのほり治療を行う沼尻良夫副会長(熊本市内)つくば鍼灸マッサージ師会提供)

2016年5月23日 茨城新聞掲載記事

で10代から80代までの114人を治療した。避難所では、触れただけで体中に痛みを感じ夜眠ることができない50代の女性や、後背部に痛みを感じておむむけに寝ることができない30代の男性などがいたという。治療の効果により

「こんなふうに身体が改善できると思わなかった」などと声を掛けられたという。沼尻副会長は「治療できる人数や滞在できる期間など私たちにできることは限られてしまう。もっと多くの人たちが継続して治療で

きるよう、活動を広げる組織づくりが必要だと感じた」と話した。同会は救済金として3万円を「被災された方々のために役立てて」と茨城新聞へ寄託。沼尻副会長と同会計の市村文江さんが届け

た。(久保浩)



ハンドマッサージをする看護師(右)阿見町阿見

「看護の日」催し マッサージ好評

県立医療大付属病院

阿見町阿見の県立医療大付属病院で、「看護の日」イベントが開かれた。看護の日は、患者や家族に寄り添う「看護の心」を伝えるため設定された。イベントには約80人が来場した。会場では、看護師による「アロマハンドマッサージ」があり、来場者の半数が体験し好評を博した。香りの

2016年5月23日 茨城新聞掲載記事

同じ日の紙面で、看護師からもマッサージがコミュニケーションツールとして効果的であることを評価されている記事がありました。心身に寄り添える技術だと言えるでしょう。

とで悩みを聞くことができると意義を話していた。ほかに地域住民がピアノやバイオリン、口笛演奏を披露した。

あるオイルを使い癒やし効果があるという。看護部長の旭佐記子さんは「リハビリを受けている患者さんと(マッサージを通じて)コミュニケーションを取るこ